

第621回番組審議会報告
2017年9月12日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長（書面） 今井美樹委員（書面）
太平信恵委員 津村記久子委員 中野健二郎委員
東野博昭委員 細見良行委員 丸山雅也委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田常務 浜田取締役 宮田取締役
小林ラジオ局長 山田プロデューサー
大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長

◆議事の概要

ラジオ番組『福島のおひろの、どうぞお構いなく。』
(2017年6月30日（金）25:40～26:30放送)
について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * 番組を聴いて、昭和歌謡好き、福島のおひろ節の好きな仲間が集まるちょっとレトロな喫茶店のような空間を思い浮かべた。普通の人には入りにくい、というのが難点。
- * ゲストを迎える回とか、出張収録の回、昭和歌謡の回もあるということだが、今回はスタジオで福島アナが自由に企画をやる回。自由なのはいいとして、ちょっとマニアックに寄り過ぎた印象が残った。
- * 今回の企画「好きなラジオ番組ベスト3」に関して、まず驚いたのは、「福島アナ、本当に他局の番組をよく聴いているな」ということ。この勉強熱心さは驚いた。
- * 面白くて、最初から最後まであっという間に時間がたった。ただ、女の人がいいたらまた雰囲気は違うかもしれないが、男の人ばかりという感じがした。
- * 独特だと思ったのは、常連のリスナーを認定して出欠を取るというところ。すごく面白い。
- * リスナーとの電話対談は大変面白く、常連のリスナーが急にアカペラで1曲歌いきるという展開は電話ならではのライブ感があった。深夜なので難しいところもあるかもしれないが、話術が活きると思うので、電話でのライブコミュニケーション、大事にしてもらいたい。

- * パーソナリティの福島アナは、五十近いおじさんかと思って聴いていたが、三十歳にしては非常に多様性があるというか、よくやっている感じがした。
- * 全体に、もうちょっと「福島暢啓」という人を出してほしい。好きなジャンルのことは、例えば、笠置シズ子の曲をかけたりはするのだが、彼の生活感みたいなものを垣間見たい。パーソナリティというのは、そうした人間性の魅力が重要なので。
- * 深夜放送というのはどれだけ固定客をつかめるかということが勝負だと思うが、そういう意味では大変個性的で、深夜にふさわしい番組だと思った。
- * タレントが多く番組を持っている時代に、「局アナとして制約の中で番組をつくっている」という福島アナの発言があった。すごく大事な話で、なかなかいいことを言うなと思った。
- * 忙しい中、仕事と思って番組を聴き始めたが、すごく気持ちが軽くなった。ありがたかった。
- * ラジオというメディアは、災害時などに典型的にあらわれるように、ある種の社会のセーフティネットのメディアだろう。深夜に1人であるような人たちの孤独感を解消するような機能も確実に果たしており、福島アナの語りはそうした需要にこたえるような側面も持っていると思った。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- * 「どうぞお構いなく。」という番組のタイトルは福島アナウンサーとスタッフで決めた。
- * この番組は、福島アナウンサーがいろんな仕事をしたり、プライベートで余暇を楽しんだりしているなかで、興味を持っているもの、疑問に思っているものを取り上げようというのが基本姿勢。
- * 今回の企画「好きなラジオ番組ベスト3」は、この番組を深夜に聴いてくれている人は普段どんなラジオ番組を聴いているんだろうという福島アナウンサーから出た素朴なテーマについてリスナーに呼びかけて集計をした。特に自分が興味を持っていることだったので、トークにも熱が入ったと思う。
- * 番組に電話で出演したリスナーが男性ばかりになってしまったのはたまたまで、女性2人の回や3人の回もある。実は番組のディレクターは女性で、そのへんのバランスもいろいろ取っていると思う。

以上